

義経はなぜ神殿をつくったのか

料理屋の
おいしい話

vol.10



「料亭義経」「割烹きの屋」に関わる人たちが、店、食材、日本料理、文化について語り合う対談企画。今回のテーマは「義経」に誕生した神殿について。先月に引き続き、玉山神社の禰宜・中村雅俊さんをお迎えています。

料理と神殿で
思い出の一日を

——料亭内に神殿を設けるというのはとても斬新な試み。きっかけは何だったのでしょうか。

高山 人生儀礼がもつと身近になる場をつくりたかったんです。僕も我が子の祝い事のように、「あれ数年たってどう数えるんだっけ」とか「何が必要なんだっけ？」などと戸惑った経験があって。加えて両親の都合を聞くなどの段取りの大変さを味わいました。家族の節目を祝う一日を義経がお手伝いすることで、その大変さを少しでも軽くできたらと考えると、一つの店で料理もお参りもできるこの形がいいのではと。

中村 完成した神殿、とてもいいですね。神社らしい重みがあって、神殿として認められる一画になったと思います。中に入ったときに良い風が流れているように感じますよ。玄関正面という場所もいいですね。
——これからのように利用されていくのでしょうか。

高山 結婚式はもちろん、子どもの祝い事や長寿祝いにも神殿をご利用いただけます。ご祈願は神主さんをお呼びします。また専属カメラマンによる記念撮影も用意しています。せっかくながら集まる機会ですから、お参りするつもりがなかった方も僕たちがご提案することでやってみようと思ってくださいね。

家族の絆を
つなぐ料理屋に

——中村さんは神殿の計画の中から「義経」の相談を受けていたとか。どのようなことを提案されたのですか？

中村 通常のお祓いは受ける人だけが前に出て、家族は後ろから見守るものですが、この神殿ではその人を家族が囲むように座ってもらってはどうかとお伝えしました。家族も一緒にお祓いを受けるような感覚ですね。神社ではこうはいかないのですが、こちらはアットホームな雰囲気の方が似合うので。

高山 家族の絆の大切さに気付くきっかけになったらいですね。そういうことを重ねていきたいと思っています。

中村 あとはここで絵馬が書けるようにすることも提案しました。
——ますます神社のようですね(笑)。数年後に訪れたときに見返すことができ、思い出の場所としてより強く捉えられそうです。

中村 先月もお話しましたが、朝や昼は時間が取れないから神社に行けないという人も、こちらなら夜でも利用できますよね。このような動きが始まったことは私もとてもうれしいです。



義経・きの屋代表
高山将士

鹿屋市出身の37歳。18歳で上京、日本料理店での修行を経て、家業を継ぐため帰郷。料亭義経、割烹きの屋を経営。



玉山神社
中村雅俊

鹿屋市出身の39歳。京都國學院で正階(神職の資格)を取得。京都・石清水八幡宮、川内・新田神社を経て、玉山神社の禰宜に。

——人生儀礼の風習が薄れつつある中で、料亭が神殿を設けてこれを感じ伝えることに大きな可能性を感じました。中村さん、2カ月に渡ってのご出演ありがとうございました。

料亭義経

鹿児島県鹿屋市向江町15-13
☎0994-41-3500 月曜定休
11:30-14:30、18:00-22:00
●ご家族のお祝い事にもどうぞ。



料亭義経

きの屋

鹿児島県鹿屋市新川町601-2
☎0994-41-3502 月曜定休
11:30-14:00、18:00-22:00
●単品メニューご用意あります。



割烹きの屋

